

同窓会報

第十三号

一九九六年七月一日発行

平成八年度同窓会

総会を前にして

同窓会副会長 小川健一



同窓会会員の皆様方におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。さて、おかげさまでまして今年度の同窓会総会も八月十一日(日)、一宮平安殿において開催される運びとなりました。卒業以来各界・各分野においてご活躍の皆様方にとっては、社会の中で重要なポジションに、そしてまた重責を担っておられる方も多くおられることと思います。そして、そんな方々にあつては、組織のつながりだけでなく横のつながりの大切さを痛感される機会も多々あるのではないでしょう

か。仕事だけに限らず様々な形で社会へ参加する時、その活動をより円滑にこなしていくためには、広い横のつながりが大変重要に思えてなりません。そういった意味では、この総会を一つの契機として恩師の方々あるいは級友、先輩、後輩とのコミュニケーションをはかることも非常に意義のあることと思います。どうか、こそつてご参加いただきますよう、よろしく願ひいたします。

さてここで、母校の近況について三点ほど報告しておきたいと思ひます。

(一)母校の校舎は、建設後約三十年を経てだいぶ老朽化しているため、平成四年度以降、その改修工事が進行しています。

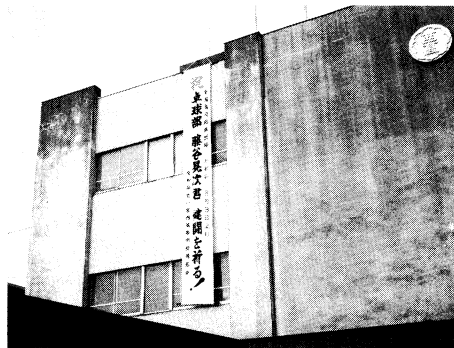
まず中館の改修が三年がかりで行われ、平成六年度をもって終了しました。続いて昨年度は本館(管理棟)の改修が行われて、内装・外観ともリフレッシュされ、玄関の外壁に掲げられた母校の校章が一段と映えるようになりました。そして今年度は、理科の実験室などのある北館の改修が行われることになっています。毎年の工事は在校生諸君にとっては迷惑かも知れませんが、私たちがかつての学び舎が伝統を保ちながら、輝きを増していく姿はうれしいものです。もし機会がありましたら、是非とも今の母校の姿をご覧いただきたいと思ひます。

(二)今年度の母校は、昨年度より一クラス減って、一年から三年まで各八クラスの計二十四クラスとなりました。これはもちろん生徒数の減少に伴うもので、一クラスの定員も、昨年度の一年生から四十名となっています。その結果、在籍生徒数も本年度はついに千名を割ることになってしまいました。

(三)母校の部活動が極めて活発で、優秀な成績を修めていることは周知のことと思ひます。昨年度は「高校総体尾張支部予選」の男子団体総会で、母校は優勝を勝ち取りました。これは三年ぶりのことですが、ここ十年間について見ますと、優勝はなんと五度目になります。わけても昨年度は、卓球部の藤谷昇次君が全国大会出場という快挙を成し遂げ、同窓会としても遠征費と垂れ幕を寄贈して激励をさせていただきました。これから先も、後輩たちは期待に違わない活躍をしてくれることと思ひますので、同窓会会員の皆様には温かいご支援の程を何卒よろしくお願ひいたします。

話を総会に戻します。前にもお話ししたことがありますが、ここ数年総会への参加者がやや少ないため、関係者一同寂しい思いをしております。我が母校は開校三十年を過ぎ、人間でいえばやっと一人前に、そしてこれから本当に充実してゆく大切な時期

にあるように思ひます。築かれつつある伝統にさらに磨きをかけ、胸を張れるものにするためには、会員の皆様方のご協力が必要なものと考えております。総会に多数の方が参加することで、同窓会活動に今まで以上の活力を吹き込んで下さることを期待しております。



平成8年度同窓会総会のお知らせ

●日時 八月十一日(日)午後五時より

●場所 一宮平安殿

●会費 五千円(学生は三千円)

同封の葉書さで出欠をお知らせ下さい。一宮駅オーシマ前から四時半にバスがでますので、ご利用の方は出欠ハガキにご記入下さい。